

消防署からのお知らせ

2021年度 全国統一防火標語「おうち時間 家族で点検 火の始末」

秋の全国火災予防運動

11月9日(火)～15日(月)までの7日間、秋の火災予防運動が実施されます。

11月に入り空気が乾燥し、火災が発生しやすい季節を迎えます。

住宅防火 命を守る 10のポイント

4つの習慣

1. 寝たばこは絶対にしない、させない。
2. ストープの周りに燃えやすいものを置かない。
3. こんろを使うときは火のそばを離れない。
4. コンセントはほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く。



6つの対策

1. 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は安全装置の付いた機器を使用する。
2. 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する。
3. 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防災品を使用する。
4. 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく。
5. お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく。
6. 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う。

『住宅用火災警報器』設置と点検を！

火災からあなたと大切な家族の命を守る！

消防法で、全ての住宅、住居部分に「火災警報器」の設置が義務付けられています。まだ付けていない方は、すぐに設置しましょう。（※詳しくは消防署へご相談ください。）

住宅用火災警報器は設置後10年を目安にとりかえましょう！（連動型を推奨します）

在宅酸素療法時の火気の手扱いにご注意ください！

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、在宅酸素療法を行う自宅療養者が増加しています。在宅酸素療法を行う際は、酸素吸入時の火気の手扱いについて、以下の事項に十分注意してください。在宅酸素療法を受けている患者やその家族等にご注意いただきたい事項

- 1) 高濃度の酸素を吸入中に、たばこ等の火気を近づけるとチューブや衣服等に引火し、重度の火傷や住宅の火災の原因となります。
- 2) 酸素濃縮装置等の使用中は、装置の周囲2m以内には、火気を置かないでください。特に酸素吸入中には、たばこを絶対に吸わないでください。
- 3) 火気の手扱いに注意し、取扱説明書どおりに正しく使用すれば、酸素が原因でチューブや衣服等が燃えたり、火災になることはありませんので、過度に恐れることなく、医師の指示どおりに酸素を吸入してください。（厚生労働省医薬・生活衛生局ホームページより引用）

詳しくはホームページをご覧ください。鹿行広域事務組合ホームページ広域消防

【URL及びQRコード】

<http://rokkou-kouiki.jp/syoubou/osirase>

